

平成30年

季刊

秋季号

Vol.67

亞東



台湾總統府にて（平成30年10月10日）



一般社団法人日本台湾親善協会

Japan-Taiwan Friendship Association

一般社団法人日本台湾親善協会の概要

名称 一般社団法人日本台湾親善協会

(英文名) Japan-Taiwan Friendship Association)

事務所 東京都千代田区平河町二―七―四 砂防会館別館

二階

(必要に応じ支部を設ける)

目的 会員相互の親睦並びに民主主義と自由を信条と

する日本と台湾との相互理解と交流を促進して

日本と台湾との関係強化と発展に寄与する。

事業

① 日本と台湾との政治、経済、文化に関する調査研究及び講演会、研究会の開催並びに研究資料の出版

② 日本と台湾との文化、芸術の相互の紹介

③ 日本と台湾との経済協力の推進に必要な情報の収集及び斡旋

④ 我が国に在住する台湾関係者及び在日留学生に対する交流事業

⑤ その他本会の目的を達成するために必要な事業

日本台湾親善協会の変遷

社団法人日本台湾親善協会は、民主主義と自由経済を信条とするアジア人同志の交流を深める目的で一九四九年 東京に設立された『華南倶楽部』が発祥です。第二次世界大戦後の激動の時代でしたが、会員はひたすらアジアの平和と繁栄を希求し、友愛と信義を基調とした国際関係の樹立に努力を続けて参りました。その結果、この趣旨に賛同する有識者が次第に増加し、活発な活動とともに組織拡大の一途を辿りましたが、一九七二年の日中共同声明は、アジアの政治情勢のみならず、在日アジア人の日常にも大きな変化をもたらしました。

その前年即ち一九七一年、千葉三郎先生(衆議院議員)は、倶楽部を強化発展させる必要を痛感し、岸信介先生、福田赳夫先生、灘尾弘吉先生らと諮り、留日華僑有志の方々が協力され、自ら発起人となり同年五月二十九日外務省認可『社団法人亜東親善協会』を設立致しました。

千葉先生の引退後、原文兵衛先生が参議院議長の要職のまま会長に就任され、その後、永年衆議院で活躍された藤尾正行先生が会長を引き継がれ、二一世紀の幕開けとともに玉澤徳一郎先生が会長を務められました。

二〇一二年一月六日「一般社団法人及び一般財団法人の認定等に関する法律」の施行に伴い一般社団法人としての認可申請が受理され、二〇一三年四月一日より一般社団法人として再スタートいたしました。

日本を含むアジア諸国は、世界の経済に大きな影響を与える程に成長しました。かかる情勢の中、二〇一二年五月、元内閣総理大臣安倍晋三先生を会長にお迎え致しました。同年一二月安倍政権が発足、会長の内閣総理大臣復帰に伴い退任され、会長代行の大江康弘参議院議員が就任、二〇一八年五月からは元衆議院副議長の衛藤征士郎先生が会長に就任されました。

日本と台湾との友好交流を発展させ関係の強化を図り、アジアの繁栄と平和に貢献するため会員一同、新会長のもと、叡智を結集し努力を続けています。

季刊「亜東」平成三〇年 秋季号・目次

一般社団法人日本台湾親善協会・概要・変遷	二頁
目次・協会役員名簿	三頁
本会の新名称決まる	四頁
日本台湾親善協会定款変更	六頁
日本と台湾の強い絆を確信！	七頁
二〇一八年度台湾國慶節表敬訪問	九頁
張淑玲・台日関係協会秘書長が、日中関係改善 にかかわらず台日関係の友好継続を希望	一三頁
事務局だより・新入会員のご紹介	一四頁

平成30年5月9日

役員名簿

名誉会長	玉澤徳一郎						
会長	衛藤征士郎						
副会長	張建国	張碧華					
	多忠和	並木正芳					
専務理事	赤松則宏						
業務執行理事		並木正芳	藤山雅康				
		柴田徳文	笹岡恭亮				
理事 20名	衛藤征士郎	張建国	張碧華	多忠和	並木正芳		
	赤松則宏	崎谷秀彦	藤山雅康	小松省二	益山茂		
	伊野雅晴	柴田徳文	笹岡恭亮	森田康郎	岩城光英		
	平野達男	榎本有里	金子万寿夫	富田家彰			
監事 2名		李ハロルド		鈴木慶一			
事務局		崎谷秀彦					
		李孔晔					

一般社団法人 日本台湾親善協会

本会の新名称決まる

亜東親善協会の名称が、『日本台湾親善協会』に改正されました。

本協会の名称について、従前よりわかりにくいとの意見がありました。この度衛藤征士郎代議士が会長に就任され、この件について日本外務省や台北経済文化代表處その他の関係機関等の意見聴取や調整をされて、名称の改正の意見を表されました。それを受けて理事会等での検討をふまえて正式に名称改正に伴う定款変更の発議を行うこととなりました。

定款変更のための社員総会は臨時総会として、平成三〇年九月二七日午後六時から、砂防会館別館の会議室「六甲」において開催されました。

総会は定刻、並木副会長の司会で始まりました。

まず、総会成立のための定足数として、社員総数二一五名、出席者一五六名で充足している旨の報告が司会者よりありました。

次に衛藤会長より次のように挨拶がなされました。

この度臨時総会のご案内を差し上げましたところ、早速万障お繰り合わせ頂きご出席をたまわり、誠にありがとうございます。また平素から皆様には亜東親善協会の発展ために尽力を頂いており、心から感謝御礼申し上げます。

ただいま国連総会が開かれており、各国首脳の演説等々皆

様ご関心がおありと思います。また台湾では蔡英文總統が懸命のご努力されておられ敬意を表しておりますが、台湾と国交がございました国が五カ国が断交ということになり遺憾で残念なことであります。

私ももそれを台湾と同じような立場でしっかりと受け止めて、当会としての取り組みもして行かなければならないと思っているところであります。

それでは早速これから臨時総会を進めさせて頂きますのでよろしくお願いいたします。

会長挨拶に続いて総会の議長選出がおこなわれ、定款第17条の規定により代表理事である衛藤会長がその任に当たることになりました。

衛藤会長は、議事録署名人として張碧華氏と赤松則宏氏を指名し、参加者の賛同を得ました。



次いで、第一号議案である「名称変更に伴う定款一部改正の件」について柴田徳文業務執行理事から変更項目について次のように説明がありました。

まず今回の改正は、会の名称を「一般社団法人亜東親善協会」から「一般社団法人日本台湾親善協会」と変更するためのもので、それ以外の項目については整合性をとるために必要な個所以外は変更しないこと、変更の箇所は、第一条の「名称」、第三条の「目的」、第四条の「事業」そして付則の部分で、夫々名称変更にもなう修文であること、が説明されました。

(提案の内容は別紙のとおり)

説明の後質疑応答に移りました。そして採決が行われ、議案は総社員数の三分の二以上の多数をもって可決されました。



定款一部改正

(改正の趣旨)

日本と台湾との友好関係をさらに深めるため、定款について所要の改正を行う。

改正案	現行
<p>(名称)</p> <p>第 1 条 この法人は、一般社団法人日本台湾親善協会と称する。</p> <p>(英文名 Japan - Taiwan Friendship Association)</p> <p>(目的)</p> <p>第 3 条 この法人は、深い信頼と友情の絆で結ばれ、民主主義と自由を信条とする日本と台湾との友好関係をさらに深めるため相互理解と交流を促進するとともに、日本と台湾友好を願う社員相互の結束・融和を図り日本と台湾交流の発展とアジアの繁栄と平和に貢献することを目的とする</p> <p>(事業)</p> <p>第 4 条 この法人は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。</p> <p>(1) 日本と台湾との政治・経済・文化に関する調査研究及び講演会、研究会の開催並びに研究資料の出版</p> <p>(2) 日本と台湾との文化、芸術の相互の紹介</p> <p>(3) 日本と台湾との経済協力の推進に必要な情報の収集及び斡旋</p> <p>(4) 日本に在住する台湾関係者及び在日留学生に対する交流事業</p> <p>(5) 前各号に掲げる事業に附帯又は関連する事業</p> <p>2 (削除)</p> <p>附則</p> <p>この改正は、平成 30 年 9 月 27 日から施行する。</p>	<p>(名称)</p> <p>第 1 条 この法人は、一般社団法人亜東親善協会と称する。</p> <p>(英文名 : The East Asian Friendship Association)</p> <p>(目的)</p> <p>第 3 条 この法人は、民主主義と自由を信条とする東アジア地域諸国との政治、経済文化に関する調査研究及び講演会、研究会の開催並びに研究資料の出版、及び社員相互の親睦を図ることを目的とする。</p> <p>(事業)</p> <p>第 4 条 この法人は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。</p> <p>(1) 我が国と東アジア地域諸国との文化、芸術の相互の紹介</p> <p>(2) 我が国と東アジア地域諸国との経済協力の推進に必要な情報の収集及び斡旋</p> <p>(3) 我が国に在住する東アジア地域諸国民の交流事業</p> <p>(4) 東アジア地域諸国からの在日留学生に対する交流事業</p> <p>(5) 前各号に掲げる事業に附帯又は関連する事業</p> <p>2 前項の事業は東京都及びその周辺の地域において行うものとする。</p>

日本と台湾の強い絆を確信！

(一般社団法人) 日本台湾親善協会 会長 衛藤征士郎

一〇月九日～十一日の三日間、『中華民國(台湾)一〇七年國慶双十節祝賀式典』参加のため、(一般社団法人) 日本台湾親善協会二〇一八年度訪問団の団長として台湾を訪問しました。

私の台湾訪問は、八月の同協会会長就任のご挨拶に続いて二ヶ月ぶりとなります。

九日早朝、福岡空港から空路台湾桃園國際空港に到着し、早速國賓大飯店へと向かい訪問団一行と合流するとともに、台湾日本關係協會邱義仁會長主催の歓迎会に臨みました。

歓迎会での邸會長をはじめとする台湾の皆様のご丁寧なおもてなしはもとより、この席に長年の友人でもある蘇嘉全立法院長が國慶節実行委員長という立場で実にご多忙の中をご出席を頂いたことには感謝を申し上げます。

夕刻の答礼夕食会には、蘇院長は宜蘭県での國慶行事に参加されたため林志嘉立法院秘書長にご出席賜り、また(公益財団法人日本台湾交流協会) 沼田幹夫代表にもご同席いただき友好の輪を広げたところです。

翌一〇日は、清々しく凜として「國慶双十節祝賀式典」に臨みました。陸海空軍の音楽隊や警察白バイ隊、婦人会な

どのパレードの華やかさとともに、蘇立法院長と蔡英文總統のスピーチには感動を覚えました。

特に中国との兩岸關係に関して、蔡總統は「台湾の民主と台湾海峡の平和の現状を維持し、大陸に対する善意も変わらず、また大陸からの圧力にも屈しない」と毅然として述べられ、中国に対して対話の再開を呼びかけたことには賛同の意を表します。



蔡英文總統



蘇立法院長（国会議長）

また何よりも式典後、公式行事も重なる中で、私たち訪問団のために蔡總統はお時間をお差し繰りくださり、呉釗燮外交部長と李大維国家安全會議秘書長もご同席いただき会談し、有益な時間をいただいたことには深甚なる感謝を申し上げます。

蔡總統から私のこれまでの日本と台湾との友好交流活動に對して直々に御礼の言葉を賜りましたことは誠に光栄であり、蔡總統のお言葉の通り、民主と自由と人権を堅守し平和の意義を深く理解している日本と台湾両国がアジア・インド太平洋地域において共に重要な役割を果たせるよう（一般社

団法人）「日本台湾親善協会」も更なる努力を続けて行くとの意を強くしております。

滞在最終日の一日は、賴清德行政院長とお会いしました。台南市長時代も含め幾度も来日されておられる大変な親日家であり、賴院長と日本と台湾との関係強化に向けての友好交流促進で一致しました。



賴行政院長（首相）

こうして今回の充実した訪問日程の全てを順調に終え、無事帰国の途に着きました。

なお、訪問の終始にわたり様々にお手配ご助力いただきました張淑玲台湾日本関係協会秘書長、西海茂洋日本台湾交流協会台北事務所副代表はじめ関係皆様様に熱く感謝申し上げます。

二〇一八年度台湾國慶節表敬訪問

岩田善信

一〇月九日午前
五時半、羽田国際線
ターミナルの中華
航空カウンター前
で集合し、日本台湾
親善協会の台湾訪
問に初参加した。空
路無事、松山国際機
場に到着し、宿泊先
の台北國賓大飯店
に荷を下ろすこと
ができた。

衛藤征士郎会長

ご夫妻は、福岡空港からの別便で来られるとのこと、一二
時からの台湾日本関係協会の邱義仁・會長主催の宴席から合
流された。この宴席には立法院長（国会議長）で國慶節実行
委員長の蘇嘉全・立法院長も同席して頂いた。

一〇月一〇日、早朝より國慶節会場に赴いた。陸海空の音
楽隊のパレード等様々なパレードが行われた後、蔡英文總統
は、「民主台湾が世界を照らす」と題して二〇分を越す演説



中正記念堂国家音楽庁前にて

を行った。

その要旨は次の通りである。「國際の政治經濟情勢には劇
的な変化が生じている。自分はこの二年あまり二三〇〇万人
の人民の自由で民主的な生活の擁護、中華民國台湾の永續發
展の防衛、台湾海峡の平和と地域の安定を全台湾人民の最大
公約数として堅持してきた。台湾を防衛する最も良い方策は
台湾を世界において不可欠かつ代替不可能な存在とするこ
と。台湾の対応の道は『安定を求め、変化に対応し、進歩す
る』こと。有効な対応戦略は強い国力を育てることにあり、
現下の最重要任務は、①国家安全保障の強化、②經濟実力の
強化、③ソーシャル・セキュリティ・ネットワークの強化
であり、国家を堂々た
るものとし、台湾を国
際的に不可欠な存在と
することが、台湾を永
続的に生存させる基礎
である。」

大変立派な演説で
あった。

一六時より總統府に
蔡英文總統を表敬訪問
した。蔡總統は、以下
の通り述べた。「台湾



羽田空港早朝集合

と日本は民主、自由、人権の価値を堅持する陣営に立っており、日本がインド太平洋地域において影響力を発揮し、共通の価値のために我々と共に努力することを期待する。まずは、一行の来訪を歓迎し、特に二か月の間隔で衛藤会長が再び訪台し、國慶節に参加されたことは実にうれしい。衛藤会長は台湾の古き友人であり、過去に『日華議員懇談会』の副会長を担当されただけでなく、今年五月には『亜東親善協会』の会長に就任し、正式な名称を『日本台湾親善協会』に変更した。衛藤会長が長きにわたって台日関係のために多く貢献されていることに、心から謝意を表明する。台日間の緊密な交流と協力関係は、多くの人々の努力によるものである。現在、『日本台湾親善協会』は名称変更するだけでなく、国会議員と地方議員の参加を拡大しており、台日交流の強化を進めてもらっている。」

蔡總統は、さらに以下のように表明した。「この一年間、



邱台湾日本関係協会会長ご挨拶

台湾と日本は、ますます多くの似通った課題に直面している。例えば、極端な気候変動がもたらす挑戦を受けている。お互いを気にかけて見舞うだけでなく、災害救助の業務の協力を共に取り組んでいる。

また、産業構造上、台日が深く協力する機会は日々明確になっており、台湾は『5プラス2産業イノベーション計画』を強く進める中で、グリーンエネルギーテクノロジー、バイオ・医薬、スマート機械、アジアシリコンバレー計画さらに防衛産業も含まれており、日本も重視する産業分野でもある。双方の企業それぞれが連携し、共に技術を進化させ、新市場のビジネスチャンスを獲得することが出来ると確信している。」

また、蔡總統は「国際政治や経済情勢の目まぐるしい変化に対応するため、台湾と日本は民主の価値、自由と人権を堅守する陣営に立っている。中国の圧力に直面し、我々は軽率にエスカレートさせるような対抗はせず、しかし、



蘇立法院長ご挨拶

屈服も譲歩もしない。このことは困難ではあるが、国家の指導者としての責任である。地域の安定を確保し、違う国とも手を取り合っ
て協力する必要がある。

台湾と民主・自由の価値を共有し、また平和の意義を深く理解している日本が、インド

太平洋地域において、引き続き影響力を発揮していただき、我々と共に共通の価値のために努力することを希望しています。見通せる将来において、『日本台湾親善協会』が重要な役割を継続して果たしていただき、多くの重要な交流と話し合いが促進することを期待します。」

最後に、蔡総統は、「衛藤会長夫妻及び『日本台湾親善協会』の皆様方の来訪を再度歓迎し、訪問団の旅の安全を祈り、台日関係が更に固く緊密になるよう。」と述べた。

衛藤征士郎会長は、國慶節の祝賀を述べ、蔡総統のご健勝にふれ、ご多忙の中、『日本台湾親善協会』の訪問を受け入れて頂くことに謝意を述べた。



立法院長を囲んで

衛藤会長は、「旧名称の『亜東親善協会』の亜東は東アジア全体をさすので範囲が広く、日本と台湾の交流に絞り込むうとして名称を変更しました。名称を『日本台湾親善協会』に変更したところ、多くの国会議員が入りたいと希望し、ここに、北海道から南は沖縄まで日華懇に入っていない五二名の国会議員と地方議員の名簿を持参しました。」

衛藤会長は、『日本台湾親善協会』のほとんどの役員の皆様が民間人ですので、国会議員は顧問として仕分けしております。私達の日本台湾親善協会の目的は日本精神と台湾精神の融合・合体が東アジアのキーストーンになると確信しており、さらには、東アジアの自由と民主主義を照らす灯台になると確信しているの
で、全力で取組んで行きます。」

衛藤会長は、「日本政府を代表する日本台湾交流協会、日華懇、日本台湾親善協会がトライアングルをなして、台湾が国際社会においてそのプレゼンスを増大することに汗を流していきます。」と



記念式典パレード

述べた。

衛藤会長は、「日台経済の礎は、かねがね日台FTAが大変重要であると確信しています。ご案内の通り日米同盟、日米安保条約の結束が必ず台湾のこれからの安全に資すると確信しています。結びに、蔡總統のもとで、台湾がますます発展することを希望する。」と述べた。

慶賀団一行には、沼田幹夫・日本台湾交流協会台北事務所代表等も加わり、呉釗燮・外交部長が總統府に同行し、李大維・国家安全會議秘書長も同席して頂いた。蔡總統には、終りに、一人一人と写真撮影もして頂いた。

翌日、一日は、行政院に賴清徳・行政院長（首相）を表敬訪問し、日本台湾親善協会の二〇一八年度の台湾訪問は無事終了した。

結びに、台湾滞在中は、日本台湾交流協会の西海茂洋・副代表及び台湾外交部亜東太平洋司・日本綜合事務科の莊文一・薦任科員には、大変お世話になりました。ここに、御礼申し上げます。



蔡英文總統表敬



賴行政院長と共に

張淑玲・台日関係協会秘書長が、日中関係改善にかかわらず台日関係の友好継続を希望

去る五月一七日、亜東関係協会は「台湾日本関係協会」と名称を変更した。その前日、同協会の蔡明耀・秘書長は外交部の主任秘書となり、その後任に副秘書長だった張淑玲氏が就任している。

六月六日、張秘書長は安倍総理の日中関係改善発言を念頭に、対日関係について「日本は他の国、地域とどのような関係を築くかに拘らず、台湾との実質的な交流関係を発展させられるはずだ。我々は日本政府もそうであると信じている」と、今後とも日本との友好を継続し、交流の発展を希望するコメントを発表した。

安倍総理はすでに昨年五月二〇日、奇しくも蔡英文氏の総統就任式の当日朝、江口克彦・参院議員（当時）の質問主意書に対し、下記のような画期的な答弁書を発表している。

〈台湾との関係に関する



我が国の基本的立場は、昭和四七年の日中共同声明第三項を踏まえ、非政府間の実務関係として維持するということである。政府としては、このような基本的立場に基づき、我が国との間で緊密な経済関係と人的往来を有する重要なパートナーである台湾との間においてこのような実務関係が着実に発展していくことを期待している。〉

日本政府もまた台湾との「実務関係が着実に発展していくことを期待している」のであり、日本と台湾の息はピッタリだ。中国の動向に左右されることは考えにくい。

日本ではまだ一般的にはなじみのない張淑玲・秘書長なので、改めてそのプロフィールを紹介したい。

【張淑玲・台湾日本関係協会秘書長】

一九六八年、台湾・台北市生まれ。淡江大学法学系卒業。僑務委員会委員長、外交部長、亜東関係協会会長の秘書官を歴任後、二〇〇一年に台北駐日経済文化代表処の業務部課長に就任。秘書組組長、文教組組長、政務部次長などを経て二〇一四年に政務部部长に就任。二〇一七年一月、亜東関係協会副秘書長に就任。五月一六日、同協会秘書長に就任。

（台湾日本関係協会HPから）

事務局だより

*新入会員のご紹介平成三十年七月一日～十月三十一日

滝沢晋作・石田慎一郎・佐々木淳・滝本和弘・菊地伸治・

佐藤悟・山下操・奥山幸猛

新春互礼会・創立七十周年合同大会開催予定

日期：平成三十一年二月二十一日

場所：憲政記念館

季刊 **亜東** (アジアの架け橋) 平成30年 秋季号 (No.67)

発行日 : 平成30年11月15日

発行所 : 一般社団法人日本台湾親善協会

発行人 : 衛藤征士郎

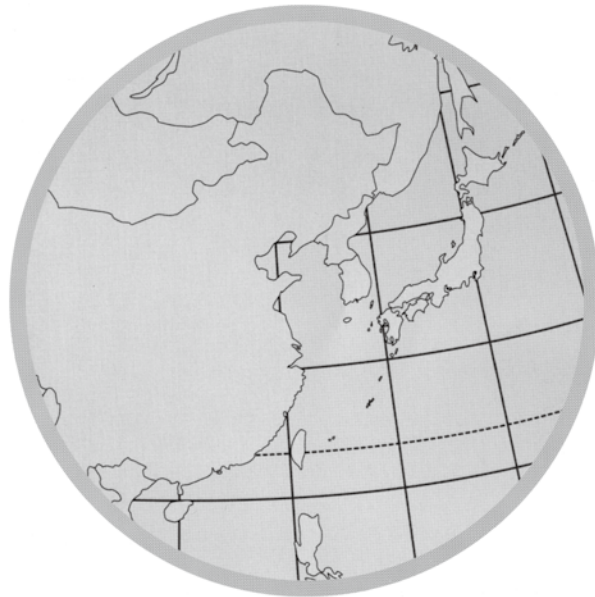
所在地 : 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-5 砂防会館別館2階

Tel : 03-3261-6405 Fax : 03-3556-5770

H P : atousinzen@nifty.com

印刷 : ヨシダ印刷株式会社

日本と台湾の 友好親善にあなたの力を!!



友情と信頼
一般社団法人 日本台湾親善協会

只今、会員を募集しております。

入会の手続き

1. 事務局所定の入会申込書を提出していただきます。
2. 入会は、協会の理事会の議を経て承認されます。

法人会費	50,000 円以上
賛助会費	30,000 円以上
個人会費	10,000 円以上



台湾の翼

チャイナエアラインなら、
うまくいく。

日台の架け橋であるチャイナ エアラインは
日本国内主要15空港から台湾へ最多の直行便を運航
豊富なフライトネットワークから、最適なフライトスケジュールをご提案
充実の法人プログラム
フルサービス航空会社ならお仕事でのご利用も安心
あなたのビジネスパートナーにチャイナ エアラインをお選びください



www.china-airlines.com/jp/jp